

平成 30 年度 松商短期大学部 卒業生に対するアンケート

2019 年 11 月

対象者：卒業 1 年目(H30 年 3 月卒)、卒業 3 年目(H28 年 3 月卒)、卒業 5 年目(H26 年 3 月卒)、卒業 10 年目(H20 年 3 月卒)、卒業 20 年目(H10 年 3 月卒)
合計 1,027 人

調査方法：郵送にてアンケートを配布。回答は用紙を返送または Web アンケートにて回答。

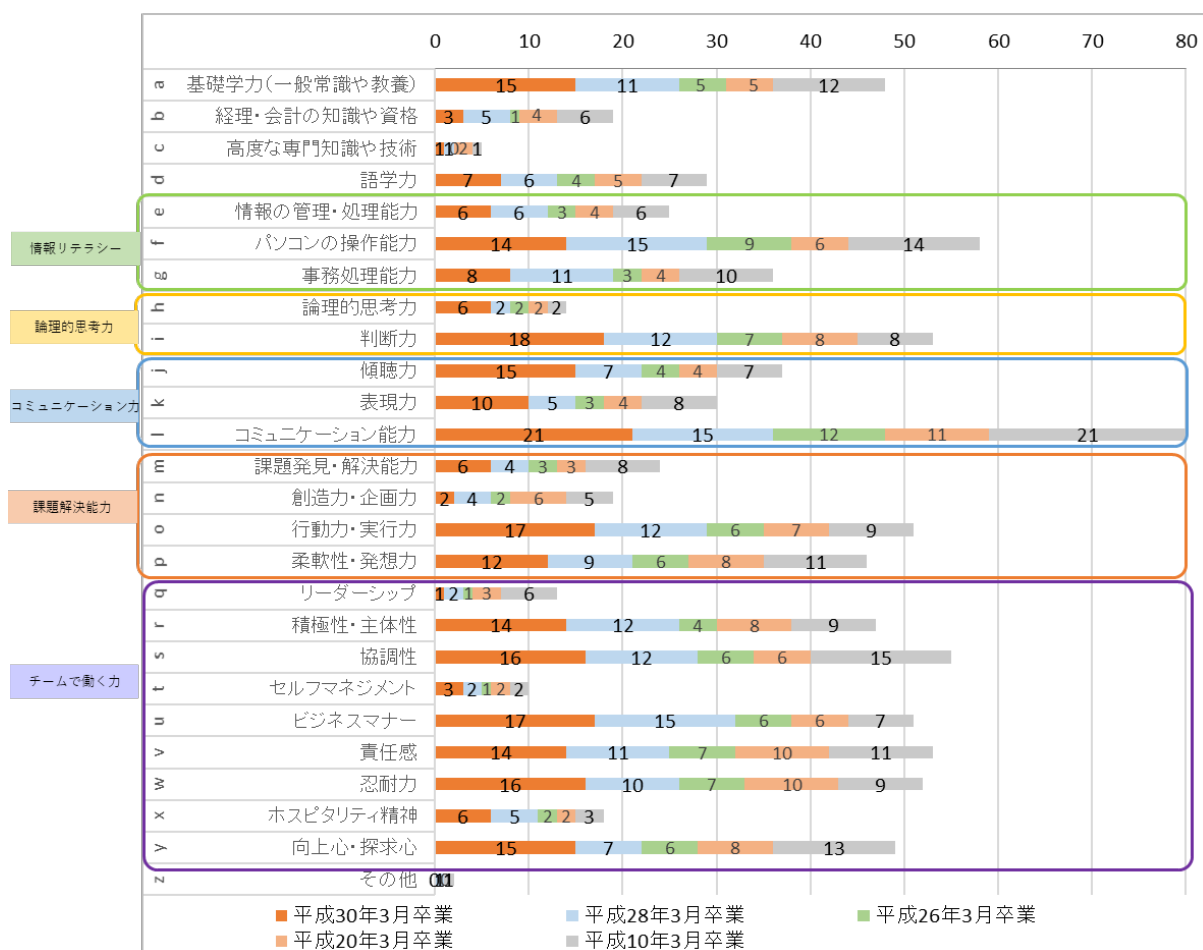
調査期間：平成 30 年 12 月上旬～平成 31 年 1 月末

調査項目：全 20 問

回答数：105 人（回収率 10.2%）

調査結果

本学での教育目標として必要な能力を認識するために、「Q15. 社会に出て、何が必要だと感じましたか？（複数回答可）」の設問に対する回答をまとめたグラフを以下に示す。



分析結果

- ・ 著しく高い項目は「コミュニケーション力」であり、どの世代も一様に高く約 8 割の方が選択している。続いて「パソコンの操作能力」に続いて「協調性」、「責任感」、「忍耐力」などの「チームで働く力」の中でも集団の 1 員として求められる能力が上位にあがっており、約半数の方が選択している。
- ・ 逆に低い項目は「高度な専門知識や技術」「セルフマネジメント」「リーダーシップ」「論理的思考力」「ホスピタリティ精神」であり、選択している割合は約 1~2 割程度となっている。つまり、特別な職種に必要な能力や、特別な役割として必要な能力などが低くなっている。

今後の本学の教育活動に対する改善点等

- ・ 本学のコアコンピテンスとして位置付けている「コミュニケーション力」は、その必要性が卒業生からも強く求められており、今後も継続して授業において育成・評価を続けていく必要があると考えられる。
- ・ ただし、この「コミュニケーション力」は、正課内の授業よりもむしろ正課外での活動による成長が大きいのではないかと考えられ、今後は正課外活動においても何らかの育成や評価を行う方法を模索する必要があるのではないかと考えられる。
- ・ また「協調性」や「責任感」「忍耐力」など、チームで働く力の中でも、集団の 1 員としてどう行動すべきかといった能力が上位にあることより、正課内の授業においても、集団で 1 つの目標に挑戦するような課題を与えるなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れる必要があると考えられる。